



# 公共用水域の水質保全活動に対する効果

平地農業地域



キーワード

しょうなかのこちいきかんきょうほぜんかい      おうみはちまんし・ひがしおうみし  
小中之湖地域環境保全会（滋賀県近江八幡市・東近江市）

- 平成19年4月より農地・水・環境の良好な保全と質的向上をはかるため、琵琶湖と共生する「持続可能な農業・農村」の実現に向け活動がスタートした。
- 当初、ほ場の整備状況や行政区の違いから2組織で活動を開始したが平成24年度より組織化され一本化して取り組むこととなった。
- 水質浄化池の機能維持活動の参加者は自治会の行事として取り組む地域もあり、今後とも継続的に活動可能な体制が作られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 251ha(田242ha 畑9ha)
- ・資源量  
開水路・パイプライン 72km  
農道 27km
- ・主な構成員 自治会、農業者、  
老人会、子供会 等
- ・交付金 約10百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

都道府県独自  
の取組

組織の広域化  
・体制強化

## 活動開始前の状況や課題

- 本地域は戦中に干拓された地区で、物資のない時代なので築堤で締め切り排水後、腰まで泥水に浸かりながら田植えをした。その後、徐々に整備され昭和26年に圃場らしくなった。



- 昭和の終わりから平成にかけて大区画の圃場整備事業が行われ排水路も深くなった。しかし干拓地なので腐植土の浮遊物が多く排水と一緒に流れるので、回遊しながら沈殿をさせて外湖に排水する水質浄化池が築造された。

## 取組内容

- 水質浄化池周辺の草刈り、ヨシ刈り



- 水質浄化池の浚渫



- 生きもの観察会、生息状況



## 取組の効果

【池の維持管理活動】

- 草刈りを年4回実施することにより、景観および環境整備が充実している。



親水公園としても活用され、各種団体など  
いろんな活動にも利用されている。

- ヨシ刈り・ヨシ焼きを毎年実施することにより、質のよいヨシに育ってきている。



刈ったヨシは地域の祭り行事に活用され、  
池のヨシは浄化作用として群生している。



- 浚渫作業を毎年実施。



池に水を通すことにより毎年大量の沈殿  
浄化によるヘドロが溜まっている。浚渫に  
よって池の機能が保たれている。

### 【東近江市農村まるごと保全広域協定運営委員会】

のむらまちほ かい ひがしおうみし  
**野村町穂たる会（滋賀県東近江市）**

- 東近江市の西部に位置する野村町は、水稻を中心に麦や大豆の栽培が盛んな農村地域で、地域の中を八日市新川が流れている。
- 本交付金には平成19年度から取り組んでおり、「農事組合法人野村町営農組合」が組織の中心となって活動を牽引している。
- 本交付金の活用により田んぼダムの取組を開始し、道路冠水等の被害が防止されたほか他、大雨後の巡回点検等により地域の防災意識を高めることができた。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 41ha(田 39ha 畑 2ha)
- ・資源量  
開水路・パイプライン 7.3km  
農道 2.3km
- ・主な構成員  
営農組合、自治会、老人クラブ、  
婦人会、子ども会等
- ・交付金 約2百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 近年、全国的に、台風・ゲリラ豪雨・集中豪雨等に伴う大小様々な災害が多発しており、地域住民の防災・減災に対する意識が高まっていた。
- 平成21年度に完了した経営体育成基盤整備事業により、ほ場の大区画化、用排水路・農道等の農業用施設の更新のほか、畦畔の補強や一筆排水口も整備され、農業生産性の向上や水田の雨水貯留機能の強化が図られた。
- これを契機に、活動組織内で話し合いを重ねた結果、排水調整板等の設置も導入し、水田の雨水貯留機能をより一層高め、下流域の洪水被害軽減に有効な『田んぼダム』の取組を開始した。

### 取組内容

- 一筆排水口に排水調整板を設置
- 自動給水栓を用いたスマート田んぼダムの実施
- 大雨時には水田の水位に応じて調整板を調整
- 大雨後には現地の災害の有無等を巡回確認
- 畦畔の保全のためグラウンドカバープランツを施工



グラウンドカバープランツによる畔の保全



自動給水弁による水位管理

### 取組の効果

- 近年のゲリラ豪雨でも道路の冠水、小河川の氾濫等の被害が防止された。
- 田んぼダム導入による営農への悪影響は特に見られなかった。
- 大雨後の巡回点検など地域ぐるみの活動の実施により、地域全体で防災に対する意識が向上した。



大雨後の湛水状況



大雨後の排水状況



# 地域の小中学生との生態系保全活動の実施

都市的地域



キーワード

地域資源の  
保全管理

生態系保全、環境保全  
型農業に関する取組

組織の広域化  
・体制強化

おおはらの みどり

きょうとにしきょうく

## 大原野「水土里リフレッシュ」(京都府京都市西京区)

- 本地域は、水資源に恵まれ、良質な米を生産している。今後とも農業振興を図るためには、農業用排水路を適切に保全管理することが必要である。これを踏まえ、本地域では、地域住民と協力して農業用排水路の清掃等を行うことにより、多面的機能の発揮の促進を図ることとしている。
- 毎年ため池の生き物を調査を、大原野地域の小中学生を対象として実施している。ため池の持つ機能・役割説明、魚類や水生昆虫などの生き物の捕獲・解説、ブルーギルやアメリカザリガニなどの外来魚の駆除を行い、従来の生態系の回復を目指している。この活動を通し、生物多様性について学ぶ機会を提供している

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積153.9ha (田146.4ha、畑7.5ha)
- ・資源量 水路41.3km、農道24.4km  
ため池31箇所
- ・主な構成員: 大原野自治連合会、  
地域運営協議会、大原野土地改良区
- ・交付金 約12.3百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 市内でも多くの農地を有する地域で、生産者の生産意欲も高い地域である。
- 周辺は水資源に恵まれ、良質な米が生産できるが、農業用排水路の保全管理、遊休農地の解消が課題であった。
- 環境保全の重要性を知ってもらいたいとの生産者の思いから小学校へアプローチし、児童対象の生き物調査を開始。当初は口頭での募集だったが、チラシを作り、小学校に配架し参加者を募っている。



大原野地域の水稻

### 取組内容



- 遊休農地の活用
  - ・ヒマワリ植栽(R4参加者数:138人)
  - ・フジバカマ植栽(R4参加者数:56人)



- 農村環境保全活動
  - ため池の生き物調査及び外来種の駆除(R4参加者数:52人)



- 施設の長寿命化のための活動
  - 未舗装農道の舗装、舗装の補修、水路の維持管理や破損部分の補修



一面のひまわり畑

### 取組の効果

- 遊休農地発生抑制のほか、地域の景観形成、地域間交流を経て、周辺住民の農村環境保全意識が高まった。
- ため池・生き物調査により、令和4年度には絶滅危惧種である「サイコクヒメコウホネ」の植物の生息が確認できた。
- 施設の長寿命化活動により、水路や農道などを適切に維持管理することで、良好な農村環境の保全に繋がっている。



専門家からの生き物の説明



たき・かなのうぎょうしんこうかい      よさのちようこう ききょうてい      よさのちよう  
滝・金屋農業振興会（現・与謝野町広域協定）      （京都府与謝野町）

- 本組織は、奥滝・口滝・金屋の3集落からなり、町内でも高齢化・人口減少が顕著な地区である。特に京都縦貫道の延伸以降は、地域内を通過する交通量が激減し、地域への観光客も減少している。
- 当組織は、農地中間管理事業を活用して地域内の農地管理を請け負っている。近隣で農地を探していた福祉法人をサポートしたことがきっかけとなり、今では構成員として草刈り等の活動にも参加してもらっている。こうした連携は、農業者の所得向上につながる加工品製造などの活動への発展に寄与している。
- 多面的機能支払と中山間地域等直接支払との両方を同一組織（当組織）で取り組んでおり、令和4年度からは、当組織を含む5つの組織で広域協定を結び、広域的な活動を実施している。将来的には与謝野町のすべての活動組織を広域協定に受け入れることを目指し、地域一体となった活性化に取り組んでいる。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積103ha  
（田98.7ha、畑4.3ha）
- ・資源量 水路46.7km  
農道19.8km
- ・主な構成員 自治会、女性会、  
農業法人等
- ・交付金 約12.3百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

### 活動開始前の状況や課題

- 水路、農道の老朽化がしているほか、中山間地域であり、農地の維持管理に係る負担が大きい
- 農業従事者の高齢化による担い手不足
- 人口減少に伴い地域の農村環境維持に必要な労働力が不足



山間水路の泥上げ作業

### 取組内容



- 地域内都市農村交流施設を拠点として活動する福祉法人と連携し、草刈り等の共同活動を実施
- ホームページで活動の情報発信
- 令和4年度から、当組織を含む5組織で組織の広域化を実現



水路の泥上げ作業

### 取組の効果

- 平成30年からは福祉法人を構成員に加え、草刈り等の共同活動を継続
- 集落の枠を越えた合意形成をはかり、農地・施設の保全活動を実施  
⇒総延長12kmの鳥獣害防の管理を一手に担う管理者を置き合理的な管理体制を構築
- 活動により繋がった福祉法人との農福連携  
⇒加工品製造（現在8品目）



加工品の販売



おおはらさと きょうとし さきょうく  
大原里づくりトライアングル（京都府京都市左京区）

- 本地域は、良質な米や、しば漬けの原料となる赤しそをはじめ、多品目の野菜を生産している。また、三千院や寂光院などの歴史・文化資源や豊かな自然環境と調和した田園風景があり、観光農村としてそれらを長年地域で守ってきた。
- 長年放置されていた遊休農地（約30a）を活用し観光梅園として再生する活動や、地元の小中学校と連携して国蝶オオムラサキの保護活動を行い、地域の農村景観や環境の保全管理に取り組んでいる。
- 農業振興を図り、農地・農道・水路を適切に保全・管理するために、農業者、NPO法人、土地改良区、地域住民、学校等と協力し、地域の農地の生産性の向上及び農村景観・環境を保全するための取組を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積46.61ha  
（田44.26ha、畑2.35ha）
- ・資源量 水路13.0km  
農道2.0km
- ・主な構成員 農業者、土地改良区  
NPO法人等
- ・交付金 約 3.7百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は水稻や野菜の生産が盛んで、また観光地としても有名な地域であり、農村景観・環境を活かした地域づくりに取り組んできた。
- 今後も農業振興を図るため、農地・農道・水路を適切に保全・管理する必要がある。



大原の赤しそ

### 取組内容



- 農業者や土地改良区が協力して農地・農道・水路の維持管理活動を実施し遊休農地の発生防止に取り組んでいる。
- 遊休農地（約30a）を開墾し、観光梅園として再生。
- 地元小学生が死骸を発見したことがきっかけとなり、学校等と連携した国蝶オオムラサキの保護活動を実施。



遊休農地発生防止のための草刈り

### 取組の効果

- 遊休農地の発生防止に取り組み、積極的に新規就農者を受け入れることで、地域農業の担い手を確保し、農業振興並びに農村景観・環境が維持されている。
- 地域の生態系を守るため、学校と協力してオオムラサキの保護活動（クヌギの育成、放蝶会、幼虫調査など）を行い、幅広い世代に地域の景観や環境の価値に目を向けてもらい、保全管理活動の継続を図っている。



オオムラサキ放蝶会



# 地域の環境の保全・向上の推進

中間農業地域



キーワード

農村環境の  
保全・向上

## 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積41.1ha  
(田38.3ha、畑2.8ha)
- ・資源量 水路12.5km、農道6.5km  
ため池6箇所
- ・主な構成員 自治会、営農組合、  
学校PTA、消防団 等
- ・交付金 約3.03百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

あらやまかんきょうこうじょういんかい

きょうたんごし

## 荒山区環境向上委員会（京都府京丹後市）

- 農地・農業用水等の資源や環境の保全、質的向上を図る活動が円滑に実施できるよう、制度開始当初の平成19年から取組を開始した。
- 体験を通じてふるさとの自然環境への関心を深めてもらうため、地域の小学生を対象とした水路の生き物調査・水質調査を行っている。
- 構成員に小学校PTAが参画していることから、生き物調査等の活動が小学4年生の地域学習のカリキュラムとして組み込まれるなど、本交付金による活動が地域の子どもたちへの教育の場としての役割を担っている。
- これらの活動により、若い世代の自然環境への興味や関心の醸成、環境美化活動を通じた農家、非農家との交流が図られている。

### 活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、後継者不足、有害鳥獣被害の増加等により遊休農地化、耕作放棄地の増加が懸念されている。また、農業用・排水路等の施設の老朽化も進行し、維持管理が困難となっている。
- 都市化が進行するなかで、次代を担う子供たちへのふるさとの地域資源の継承も課題となっている。



景観作物の植栽作業

### 取組内容



- 地元小学生児童(約40名)と「用水路の生物調査・水質調査」を毎年実施している。
- 景観形成のため花(コスモス)の植栽を農家、非農家の参加により実施している。



小学生との生き物調査

### 取組の効果

- 魚類等の生息状況(希少種のメダカ等)や水質の動向を把握したり、棚田模型を用いて棚田のしくみや役割についても理解を深め、小学生への環境教育を担っている。
- 農用地を活用した景観形成作物の植栽を通じて、農家・非農家の交流の場も創出している。



棚田のはたらきを学ぶ小学生





### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 17.2ha  
(田 15.2ha、畑 2.0ha)
- ・資源量 水路 6.3km 農道 3.0km  
ため池 4箇所
- ・主な構成員 自治会、農会、高年  
クラブ、婦人部
- ・交付金 約 1.3百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

おかのうちほぜんかい

あこうぐんかみごおりちょう

## 岡農地保全会（兵庫県赤穂郡上郡町）

- 女性向けの草刈り講習会や高齢者が安全に作業できる足場の設置等により女性や高齢者の参加に向けた環境作りを工夫することで、女性参加者が増加している。
- 直営施工により人材や技術を最大限に活用し、地元の農業資源への愛着が高まったことで維持管理の意識が向上している。
- 作業をとおして、施工技術の次世代への伝承と併せ、施設への意識及び愛着が大きくなっている。

### 活動開始前の状況や課題

- 水路やため池の老朽化が進行しているが資金がなく補修が困難
- 農業者の高齢化により農業者だけでの保全が困難



ため池余水吐更新の直営施工

### 取組内容



- 地域でできることは自ら行うことをモットーに地域自ら直営施工



- 女性向け草刈り講習会や高齢者が安全に作業できる足場設置を設置するなど女性や高齢者の参加に向けた環境づくり



農道法面にあじさいの植栽活動

### 取組の効果

- 女性向けの景観形成活動・交流会など女性が参加しやすい環境を構築し、参加者の増加につながった。
- 直営施工の実施によって施工技術の次世代への伝承地元の農業資源への愛着が高まり維持管理への意識が高まった。



水路補修工事の直営施工



# 都市部ため池周辺の住民・小学校と連携した保全

都市的地域



キーワード

農村環境の保全・向上

## 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 20.5ha (田19.7ha、畑 0.8ha)
- ・資源量 水路 14.61km 農道 1.5km ため池 7箇所
- ・主な構成員 水利組合、農会、自治会
- ・交付金 約 1.1百万円(R4)

農地維持 支払

資源向上 支払 (共同)

資源向上 支払 (長寿命化)

なかのぼん いけきょうぎかい あかしし

## 中之番ため池協議会 (兵庫県明石市)

- 本協議会は平成19年度に設立され、本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策による取組みを実施。
- 農業者とため池に近接した自治会が、協働活動を永年活発に行っている。
- 地域住民とのクリーンキャンペーンや花壇管理、小学生を対象にした田植え、稲刈り等の農業体験、かいぼり体験学習、ため池での野鳥観察会等、ため池の多面的な機能に関する学習会にも精力的に取り組んでいる。

### 活動開始前の状況や課題

- 都市化によるため池の周辺環境の変化により、周辺住民から除草を求める苦情が出る。
- 農業者が減少し、農業者だけではため池の保全が困難な状況。
- 地域住民のため池への関心は低い



農業者の高齢化、担い手不足のため、ため池法面の草刈りを機械化

### 取組内容



- ため池周辺の都市化に対して、ため池の役割や自然について知ってもらい、将来の担い手を確保するため、平成21年頃から小学校の先生と協議を重ね、小学生の田植え、稲刈りなど農業体験やかいぼり体験を実践
- 非農業者と共生する地域づくりのためクリーンキャンペーンや野鳥観察会などの活動を展開



ため池での野鳥観察会



小学生稲刈り体験

### 取組の効果

- 植栽活動に30人、クリーンキャンペーンに200人、野鳥観察会に50人が参加し、ため池等の役割や保全に係る理解が増進。
- 農業体験、かいぼり体験に小学生100人が参加。ため池等の役割や保全に係る理解が深まり、次世代への意識が醸成された。



ため池クリーンキャンペーン



小学生かいぼり体験



# 地域全体での水田貯留防災減災

中間農業地域



キーワード

・自然災害の防災  
・減災・復旧

## 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 32.6ha  
(田 32.6ha、畑 0ha)
- ・資源量 水路 10.2km 農道 3.1km
- ・主な構成員 営農組合・自治会・  
消防団・子供会・  
老人クラブ  
周世ふれあい市場
- ・交付金 約 2.4百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

すせうつく むら かつどうそしき あこうし

## 周世美しい村づくり活動組織（兵庫県赤穂市）

- 防災意識が高く、集落に対する浸水被害を軽減できるよう、地区内全ての田で水田貯留（田んぼダム）に取り組んでいる。
- 生き物調査や外来種駆除の環境保全活動を地域の小学生等と連携して実施し、郷土愛の醸成に努めている。
- 直売所「周世ふれあい市場」での地元産食材提供を通じて地域交流に取り組むとともに、集客を通じて地域の魅力等を発信している。

### 活動開始前の状況や課題

- 小学生が減少し、地域の活力が減退
- 農業者が減少し、耕作放棄地が増加
- 千種川に隣接した低地帯のため、湛水被害が多く、地下水位が常時高いなど、営農面で課題



周世地区の風景

### 取組内容



- 小学生等による生き物調査や外来種駆除の環境保全活動を継続して実施



- 水害防止のため田んぼダム推進のパンフレットを作成し啓発



- 耕作放棄防止のため、直営施工により弾丸暗渠にて排水改善を実施



田んぼダム用セキ板の設置

### 取組の効果

- 生き物調査を継続して実施することで、小学生等に生物多様性の保全と豊かな自然環境への理解が一層広がるとともに、郷土愛の醸成が図られた。
- 田んぼダム用セキ板を全ての水田で設置し、治水対策に取り組み溢水を防いだ。
- 多面の構成員の耕作物を使用して地元で米粉パンを作るなど生産の振興を図られた（地産地消）。また、多面の活動により美しい農村景観を作り地元コミュニティの結束効果、農業離れを防いだ。



生き物調査風景



米粉パン



### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 97.1ha  
(田 87.3ha、畑 9.8ha)
- ・資源量 水路 57.3km  
農道 27.8km
- ・主な構成員 農会・水利組合・  
営農組合・老人クラブ・  
子供会・婦人部
- ・交付金 約 8.7百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

たかなぎこういきみどりかい やぶし

## 高柳広域水土里会（兵庫県養父市）

- 県下第1号の広域組織として既存の自治協議会を事務局に平成28年に設立
- 広域化を契機にこれまで未取組であった集落、団地等を新たに含め、小学校区の全16集落で発足し、広域のスケールメリットを活かした地域資源保全プラン策定や田んぼダム、環境保全等の取組みを地域全体で行っている。
- 農地を将来に渡り引き継いでいくため、「草刈り隊」など新たな保全体制をはじめ、地域農業の将来を見据え、人・農地プランの実質化、中間管理機構の活用に向け、また地域特産大豆の加工販売や農家レストランへの地産食材提供等、地域の雇用創出・6次産業化の取組みを下支えしている。

### 活動開始前の状況や課題

- 農業や農村の地域課題の解消と地域の連携強化が従来より課題であった。
- 活動組織の高齢化や事務負担等持続的な活動等も課題であった。
- 高柳地区自治協議会(小学校区)を単位とした地域活動が活発化しており、農業を支える基礎活動として広域化による解決を目指した。

	集落数	面積(ha)
広域化前	8	93
広域化後	16	97

### 取組内容

- 減農薬の水稻生産を下支えする細やかな草刈り
- 本地区の在来種である青大豆「八鹿浅黄」を使用した味噌づくり
- 田んぼダムに取り組み、雨水貯留効果を高め水害防止を図っている。
- 集落内の子どもと生き物調査を通じて農村環境保全の大切さを学んでいる。(51名参加。うち子ども29名)



集落内の子どもと生き物調査

### 取組の効果

- 集落を超えた活動が活性化し、持続的な体制づくりにつながった。
- 交付金を融通し、施設の補修更新が計画的かつ効率的になった。
- 広域化を契機に、草刈隊を非農家・若手農家40名により、令和2年度から活動を開始しました。課題であった草刈りを効率よく広域に行えるようになった。



草刈隊メンバー



農用地地面の草刈